

シダネルとマルタン展

19世紀末から20世紀初頭のフランスで活躍した画家、アンリ・シダネル(1862-1939)とアンリ・マルタン(1860-1943)に焦点をあてた、国内初の展覧会です。印象派を継承しながら、新印象主義、象徴主義など同時代の表現技法を吸収して独自の画風を確立した二人は、幻想的な主題、牧歌的な風景、身近な人々やその生活の情景を、親密な情感を込めて描きました。「最後の印象派」と言われる世代の中心的存在であった二人は、深い友情で結ばれながらも、シダネルは北フランスに特有の霞がかった柔らかな光を、マルタンは南仏の眩い光を描き、それぞれの活動拠点に由来して、異なる光の表現を追求します。世紀末からモダニズムへ至るベル・エポック期、独自の絵画世界を展開した二人の道のりを、約75点の油彩、素描、版画を通して辿ります。



アンリ・マルタン《二番草》1910年、油彩・板、69×100cm、フランス、個人蔵
©Archives photographiques Maket Expert

2022年
3/26(土)
|
6/26(日)
月曜定休

休館日 6/27-7/12

スイス プチ・パレ美術館展

スイスのジュネーブにあるプチ・パレ美術館は、19世紀後半から20世紀前半のフランス近代絵画を中心とした豊富なコレクションを所有しています。創設者である実業家オスカー・ゲーズ氏は熱心な美術蒐集家であり、1968年にそのコレクションを優雅な邸宅で展示、公開したことが、プチ・パレ美術館の始まりです。ゲーズ氏の逝去後、プチ・パレ美術館は現在まで休館していますが、今回、日本では30年ぶりとなる収蔵品展を開催いたします。印象派から新印象派、ナビ派、フォーヴィスム、キュビズム、エコール・ド・パリへと近代フランス絵画の流れを、38名の作家による油彩画65点という充実したラインナップによってご紹介します。



オーギュスト・ロノワール《詩人アリス・ヴァリエール＝メルツバッハの肖像》1913年
油彩・カンヴァス、92×73cm、Renoir et l'art moderne, Collections du Musée du Petit Palais de Genève

2022年
7/13(水)
|
10/10(月・祝)
月曜定休
(ただし7/18、9/19、10/10は開館)

休館日 10/11-11/4

「おいしい」ボタニカル・アート展(仮称)

イギリスのキュー王立植物園の協力のもと、植物画(ボタニカル・アート)の中でも食用となる植物を描いた作品に焦点をあてた展覧会です。野菜や果物はもちろん、コーヒーやお茶、ハーブ、各種スパイスなど、イギリスの食生活を大きく変えた食物の植物画を、逸話や食材として取り入れられるようになった背景と共に紹介します。古いレシピや食卓を飾る陶磁器など食にまつわる資料類も展示し、「おいしい」ボタニカル・アートを通じて、イギリスの歴史と文化をたどる展覧会です。



ウィリアム・フッカー《桃:グリムウッズ・ロイヤル・ジョージ》(左)《葡萄:レザンド・カーム》(右)1818年、銅板・手彩色/紙、個人蔵 Photo Michael Whiteway

2022年
11/5(土)
|
2023年
1/15(日)
月曜定休
(ただし1/9は開館)
※年末年始休館 12/29~1/4

休館日 1/16-2/17

FACE展2023

第11回目となる現代絵画のコンクール展です。「年齢・所属を問わない新進作家の登竜門」として、全国より応募された作品から、入選した作品約80点(内受賞作品9点)を展示します。様々な技法やモチーフで時代の感覚を捉えた「真に力があり、将来国際的にも通用する可能性を秘めた」作品をお楽しみください。観覧者の投票によるオーディエンス賞も授与します。

2023年
2/18(土)
|
3/12(日)
月曜定休



SOMPO美術館

050-5541-8600 (ハローダイヤル) <https://www.sompo-museum.org/>

所在地: 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

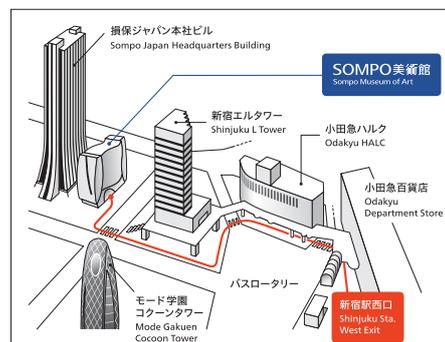
開館時間: 午前10時~午後6時(最終入館は閉館30分前まで)

休館日: 月曜日(祝休日の場合は開館)、年末年始、展示替の期間

観覧料: 展覧会により異なります。

観覧所要時間: 約40分

◆展覧会名、会期、開館時間等が変更となる場合がございます。最新情報はハローダイヤルまたは美術館ホームページにてご確認ください。



新宿駅西口より徒歩5分